

「買い物と移動の足」を 数字で見る

市の公開資料9件から、いま起きていることと、今日からできることを整理しました。

2026年8月14日

三陸ハピネス（陸前高田市） 石田祐太

「バスの時間が合わない」「店が遠くなった」——その実感は、気のせいではありません。市の公開資料に、すでに数字で出ています。

45.0%

公共交通への
否定的評価
市民意識調査 2022・
n=814

55.5%

商業振興への
否定的評価
市民意識調査 2022・
n=814

22件

「当日に予約できない」
デマンド交通の不満1位
利用者調査 2023

41.3%

65歳以上の割合
2024年時点・人口は2026
年7月末で16,532人

いま、何があって、何が足りないか

市内の移動の柱は、BRT・市内バス・予約して乗る「デマンド交通」です。市の地域公共交通計画（2024年）は、BRTを幹に他を支線として組み直す方針と、AIオンデマンド交通の検討を掲げています。市内路線バスとデマンド交通の利用者は2023年度16,897人→2024年度16,626人（BRTは含まず）。

デマンド交通への不満（2023年調査）	件数
当日に予約できない	22件
休日に予約・利用できない	13件

足が無いではありません。「思い立った日に使える足」が無いのです。平日の、前もって決めた用事には使える。でも「今日、急に病院へ」「日曜に買い物へ」が利きません。夜間はさらにはっきりしていて、市はBRT以外の夜間公共交通が無いことを認めています（2023年・意見公募への回答）。

これからの話を、「誰が動かせるか」で三つに分けます

① あなたと家族が、今すぐ動かせること

デマンド交通は「前もって予約する足」と割り切る。2023年調査の時点では当日予約はできない仕組みでした。通院・買い物を前日までに決める段取りにすれば、いま使えます（窓口: 市まちづくり推進課のデマンド交通案内ページ）。

買い物の付き添いは「スローショッピング」、家事や買い物の手伝いは「暮らしささえ隊」（訪問型サービスB）。どちらも入口は地域包括支援センターです。離れて暮らす家族が代わりに窓口へ電話して段取りしても動きます。

② 地区や近所で決めれば、動くこと

市の交通計画には、住民どうしの支え合いによる移動を支援する方向が書かれています。買い物の乗り合わせや送迎の当番は、制度を待たずに始められる領域です。地区の声を市へ届けるときは「運転しない世帯が何軒あるか」など**数字を1枚添える**と通りやすくなります。数えかたは無料で手伝います。

③ 一人では動かせない、まち全体の宿題

当日予約、休日運行、夜間の足、路線の組み直し。ここは市と交通事業者が予算と人を動かさないと変わりません。正直に書きます——**私はこの制度を動かせません。できるのは、全員が同じ数字を見ている状態を作ることまでです。**

次の「議会と語る会」や地区の寄り合いで、この一問

デマンド交通の不満のいちばんは「当日予約できない」（22件）、次が「休日に使えない」（13件）。利用者は年16,626人（2024年度）で少しずつ減っています。**当日と休日を開けるには、何が足りないのでしょうか。**——誰かを責める話ではなく、同じ数字を見て確かめる問いです。

このレポートが間違っている可能性

土台は市の公開資料9件だけで、**実際に困っている方の一次の声を、私はまだ持っていない**。市民意識調査の回答率は41.2%で、答えなかった6割の声は入っていません。買い物に困っている人数の市単独統計は未確認です。実際の声で、このレポートは書き直されていきます。

あなたやご家族の困りごとを聞かせてください（調べ物は無料です）

ご本人だけでなく、ご家族・支援しているお仕事の方からの「代わりの相談」も歓迎します。

三陸ハピネス（陸前高田市）石田祐太 ▶ sanriku-happiness.com（記事版: [articles/kesen-kaimono-idou-ashi/](/articles/kesen-kaimono-idou-ashi/)）

出典（市の公開資料9件・URLは記事版に全リンクあり）

1. 市民意識調査（2022年）／city.rikuzentakata.iwate.jp
2. 人口・世帯数（2026年7月末）
3. 地域公共交通計画（2024年）
4. 市内交通の利用実績（2025年公表）
5. デマンド交通利用者調査（2023年）
6. 総合計画パブリックコメント結果（2023年）
7. スローショッピング（市・地域包括支援センター）
8. 訪問型サービスB「暮らしささえ隊」
9. 第3期こども・子育て支援事業計画（2024年）